

令和 8 年度 飯田市歴史研究所 研究計画

歴史研究所の調査研究活動は、複数の研究員が研究組織を構成して諸課題に取り組む基礎共同研究と、各研究員が個々の課題に取り組む基礎研究によって進められています。令和 8 年度は、以下の体制で調査研究を行います。

1. 基礎共同研究（名前は代表者）

基盤調査：日常的・永続的な調査・研究事業		単位地域研究： 市域の自治区域（旧町村）を対象に取り組む総合的な調査・研究	
史料所在状況踏査	羽田 真也	飯田・上飯田	多和田 雅保
史料現状記録調査	羽田 真也	座光寺	羽田 真也
オーラルヒストリー調査	伊藤 悠	川路	羽田 真也
歴史的建造物調査	岩田 会津	三穂	前澤 健
歴史公文書調査	伊藤 悠	松尾	伊藤 悠
		南信濃	岩田 会津
課題研究：数年間をかけて特定のテーマに取り組む研究			
山里の分節的把握—阿智村清内路を素材として			坂本 広徳
地方小都市の近代化過程における学校を中核とした文化的ネットワーク構築			多和田 真理子
「天竜川流通圏」における山里社会の存立構造と地域類型把握に関する基盤的研究			吉田 ゆり子

2. 基礎研究

所長	伊坪 達郎	近世末期から近代にかけての旗本近藤氏の変化調査
顧問研究員	加藤 陽子	森本州平日記を読む
	田島 公	国指定史跡・恒川官衙遺跡の保存・活用を促進するための地方官衙（「評衙」・「郡衙」）と古代地方寺院（「評寺」・「郡寺」・「定額寺」）の研究
	多和田 雅保	近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究
	多和田 真理子	小学校の設置運営と地域の関わり—一日誌類の分析を中心に—
	安岡 健一	「農村メディア」を通じたパブリック・ヒストリー実践
	吉田 ゆり子	山里に生きた人々の意識—身分と職分に注目して—
研究員	伊藤 悠	近現代の飯田下伊那における地域経済と資源
	岩田 会津	明治期の地図・地籍史料に基づく地域景観の復元
	羽田 真也	近世の大平街道をめぐる社会構造
特任研究員	竹村 雄次	明治大正昭和期の下伊那文化の特色（観劇文化を中心に）
	前澤 健	・樽木役の負担に関わる諸問題 4 ・明治初年の天竜川通船 2
調査研究員	太田 仙一	飯田・下伊那の経済・経営史的研究
	竹ノ内 雅人	飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究
	田中 雅孝	養蚕地帯における社会構造と主体
	千葉 拓真	近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究
	原 英章	飯田・下伊那の戦争に関わる遺跡と日記の調査（平岡ダム、個人の日記）
	福村 任生	伊那街道における歴史的景観の持続再生に向けた総合的研究
	本島 和人	・満洲移民送出及び引揚げに至る下伊那の社会と経済 ・満洲移民参加者の書簡の翻刻と解説
市民研究員	粟谷 真寿美	青年会、青年運動の研究
	坂本 広徳	近世清内路の社会構造
	壬生 雅穂	ミチューリン会で菊池幸子が作り出した「場」